

家では読めているのに点が伸びない理由

「家では読めているように見えるのに、テストになると点が取れない」——中学受験の国語で、保護者の方から非常によく聞く悩みです。しかし多くの場合、原因は文章が読めていないことではありません。違いは“読み方の手順”にあります。

点が伸びる子と伸びない子の3つの違い

読む順番の違い

点が伸びる子は、まず本文を通して読み、話の流れをつかみます。そのあとで設問を見るため、設問に振り回されません。一方、点が伸びにくい子は最初に設問を読み、答えを探しに本文へ戻ります。その結果、部分的な情報だけを追い、全体像が頭に残らなくなります。

見ているポイントの違い

点が伸びる子は、本文と選択肢の意味が一致しているかを確認します。言いかえ表現に気づけるため、言葉が変わっても正しく判断できます。一方、点が伸びにくい子は同じ言葉を探そうとし、表面だけを合わせてしまうため、微妙なズレに気づけません。

根拠の扱い方の違い

点が伸びる子は、「なぜそう答えたの？」と聞かれると、本文のどこを根拠にしたのか説明できます。点が伸びにくい子は、「なんとなく」「これっぽい」と感覚で選びがちです。判断基準が言葉になっていない状態です。

親ができる一番シンプルな関わり方

点が伸びないときに「もっとちゃんと読みなさい」と言う必要はありません。代わりに、ぜひ使ってほしい一言があります。それは「どこに根拠があった？」です。すぐに答えられなくても問題ありません。一緒に本文へ戻り、根拠を確認することが大切です。この積み重ねが、「読む = 根拠を探すこと」という意識を育てます。

まとめ

国語の点が伸びない原因是、才能やセンスではありません。多くの場合、読み方の“型”を知らないだけです。その型を親子で確認し続けることで、国語の成績は安定していきます。まずは次の演習から、「どこに根拠があった？」この一言から始めてみてください。